

第4回 三原川水系河川整備計画 検討懇談会 議事概要

事項	第4回 三原川水系 河川整備計画 検討懇談会	参加者	別紙参照
日時	平成19年10月24日 14:00～17:00	場所	南あわじ市 中央庁舎別館会議室
内容	1.開会 2.開会のあいさつ 3.議事 (1)第3回三原川水系河川整備計画検討懇談会議事録の確認 (資料1-1,1-2) (2)河川整備計画の目標と実施に関する事項(内水対策) (資料2) (3)河川整備計画の目標と実施に関する事項(利水・環境) (資料3) 4.その他(連絡事項) 5.閉会		
資料	資料1-1:「第3回三原川水系河川整備計画検討懇談会」議事概要 (非公開) 資料1-2:「第3回三原川水系河川整備計画検討懇談会」議事録 (非公開) 資料2: 河川整備計画の目標と実施に関する事項(内水対策) 資料3: 河川整備計画の目標と実施に関する事項(利水・環境) 資料4: 今後のスケジュール 資料5: 三原川水系河川整備基本方針(案) (非公開)		



1. 開会

「第4回 三原川水系河川整備計画検討懇談会」が開会した。
配布資料の確認を行った。
事務局メンバーの紹介を行った。



2. 開会のあいさつ

淡路県民局県土整備部長より開会の挨拶を行った。

凡 例
委) 委員意見
事) 事務局回答
傍) 傍聴者意見

3. 議事

第3回三原川水系河川整備計画検討懇談会議事録の確認(資料1-1,1-2)

第3回三原川水系河川整備計画検討懇談会の議事概要について、事務局より説明を行った。
別紙の委員の役職に誤りがあったため訂正した。

第3回三原川水系河川整備計画検討懇談会の議事概要の内容について、了承された。議事概要、議事録の修正については、1週間を締め切りとし、10/31までに事務局に連絡する。
事務局は、修正後の議事概要・議事録について、個人名を伏せて公開する。

委員から新たな意見が出され、後に議論することとした。

委) 倭文川についても流下能力不足区間と主張しているにもかかわらず、前回の議題の中から外れているのが地元としても納得いかない。倭文川と長田川の合流点から縦貫道の高架下まで区域として入れてほしい。平成16年台風時には、河川断面不足が生じていた。
また、土砂の堆積により水が流れにくい状況になっていた。

委) 大日川の潮止堰を嵩上げてほしい。

第3回検討懇談会での協議事項への回答

第3回検討懇談会での協議事に対する回答について、パワーポイントにて事務局から説明を行い、意見交換を行った。

委) 数字的に見ると、短時間では昭和54年洪水の方が大きいですが、浸水の被害は平成16年洪水の方が大きかった。土砂がたまり、断面が不足していたために内水被害が大きかったのではないかと。

事) 昭和54年対応とした今回の計画は、平成16年台風後に測量し、河積の堆積状況を把握した上で計算したものである。

委) 昭和54年以降、土砂の浚渫をしているのか。

事) 平成16年度にたまった土砂を考え、昨年度、浚渫している。

委) 昭和54年の河口改修以降、浚渫はやっていないと聞いているが、平成16年以前で浚渫はしているのか。

事) 確認を行う。

河川整備計画の目標と実施に関する事項(内水対策)(資料2)

河川整備計画の目標と実施に関する事項(内水対策)について、パワーポイントにて事務局から説明を行い、意見交換を行った。

委) 倭文川排水機場には2つ機械があるが2つ同時に起動させたのは平成16年台風のみ。排水の機械ではなく川自体をもう少し整備してほしい。宝明寺川については、宝明寺川での排水を考えてほしい。

事) ポンプまで水が流れてくるという前提(整備が必要であることを前提)でポンプ規模を決めているため、圃場整備等と協力していく必要がある。河川整備計画では、倭文川排水機場の全体でのポンプ規模を設定しており、宝明寺川の分離については、実施レベルで検討を進めていく。

委) 1頁の図は倭文川と長田川の合流点のところが浸水区域として示されているが、4頁では、浸水区域から外れているのはどういうことか。

事) 4頁の図は県の管理区域の流域を対象に、描いている。

委) 資料として誤解を生むので、変える必要があるのでは。

事) 資料にコメントをつけるなどわかりやすくする。

委) 2～4頁の3つの絵と9頁の絵は合うのか。宝明寺川については合わないように思う。

事) 浸水しているか否か、ポンプによってどう変わるかを示したかったので、宝明寺川の北の部分は4頁では割愛している。

委) 平成6年に補助整備をしたが、宝明寺の内水を倭文川にポンプアップするという話で、ポンプ機場の土地を確保している。もし今のポンプで能力があるなら、宝明寺川の水を倭文川にポンプアップしたい。

事) 農業用のポンプ用地ではないか。どういう位置づけのポンプ場なのか。

委) 土地採択事業の一環として考えられたものだが、採択基準に合致しなかった。

委) 平成16年に入貫川では、68件浸かったというが、実際と整合するのか。

事) あくまで地盤高を基準に設定した家屋数であり、実際の浸水家屋と全て整合するものではない。

委) 地元としてはできるだけ床上はなくしてほしい。床上になると財産を失ってしまう。内水をできるだけ考えてほしい。

委) 排水機場の増強は金額的にも大した増強ではない。床下でも被害は大きい。被害を残しての計画は地元には厳しい。もっと被害がなくなるような計画にすべきでは。

事) 港湾と合わせて46の排水機場を県が管理しており、119機のポンプがある。そのうち24機が40年を越えている。県の単独費ではとても対応できない。財源的な問題からも、国からの補助が必要であり、河川整備計画を策定する必要がある。

事) 被害がなくなるような整備をするとなると、膨大な事業費になる。

委) 財源的な問題は実施計画のときに反映していくもので、整備計画では目標的なものとして考えていた。

委) 努力目標なのか。現実的な目標なのか。

事) 現実的に整備可能なところを目標とした整備計画にしている。

委) 1頁の浸水区域となっている長田川と倭文川の合流点の上流は4頁では除外されている。後にも残ることなのでちゃんとしてほしい。

事) 1頁に9頁の線分けを入れたらどうか。

委) 平成16年台風で、流地区は浸水していなかったということか。

事) 浸水はしている。4頁にのせているのは県の対象エリアでの検討。2～4頁の絵に1頁の浸水区域の絵を重ね合わせて対応する。浸水域全体の中での位置がわかるような表記をするなど、資料を工夫する。

河川整備計画の目標と実施に関する事項（利水・河川環境の目標）

河川整備計画の目標と実施に関する事項（利水・河川環境の目標）について、パワーポイントにて事務局から説明を行い、意見交換を行った。

委）現状では少ない水際の植生ではあるが、現状の植生の保全も大切である。

中流においても、攪乱による営力は可能な限り利用を図ることが望ましい。

「河川愛護」、「河川美化」という言葉が古く、河川とともに生活をしていく表現とできないか。

埋土種子を使うと外来種が進入しにくくなるため、実施の際には、植生や種の分布を把握するようにしてほしい。

委）特に、三原川独自の環境に対する工法的なものはないか。

委）具体的には、全域的な植生を把握しないとわからない部分もあるが、流下の阻害にならない範囲で、ヨシ群落等、草本の保全が大切である。

委）三原川は田園地帯を流れている。里山河川など、三原川の特徴が入っているとよいのでは。

委）三原川では普段は水が少なく、南あわじ市では公園も少ないことから、河川公園等の利用方法も考えてほしい。小学生では生活科という教科もあり、子供が水に親しめる環境ができればと思う。

新たな意見について

計画的に工事を実施する区間での長田川の延伸について

事）計画的に工事を実施する区間は、必要な区間が多くある中から、優先順位をつけて、県としても精一杯の12kmを設定しており、延伸は難しい。

委）昭和45年から3年かけての倭文川の改修の際に、地元説明の際に、合流点をもっと下げてほしいといていたが、300mほどあがり、堤防高も1m以上あがっているようにみえる。土砂の堆積の影響もあり、平成16年には現実的に、大きな被害をうけている。内水ポンプやサイフォンを大きくするなどについても検討してほしい。

事）河川整備計画として議論してきており、個別の箇所については、他地区も含めて、別途、協議、調整を行いたい。

委）延伸を行うとその分事業期間が伸びることになり、次の整備で考えることと同様なことになるのではないか。

事）30年間の計画で12kmというのは妥当なところではないか。市としても河川整備計画として実施を望むが、実現できる河川整備計画である上で難しい。馬乗捨川や山路川も同様であるが、全く、触れられないというのは耐えられない思いがあり、河川整備計画には、そういった思いを汲んだ扱いの記載を考えてもらいたい。

事）今後の30年間での実施は難しいが、次期の候補として記載できるか等、検討を行い次回以降提示する。

潮止堰の逆流について

事）潮止堰については実施時に調査等をして検討する。

傍聴者意見

傍) 孫太川関係で、市の管理区域になっているところから、新川の下を通り、孫太川の方に入ってくるが、それはどうなるのか。

事) 確認する。

傍) 浸水するという前提で計画が進んでいるのであれば、財産あるいは経済基盤に対するソフト対策の提言ができないか。

事) 災害時の避難対策については、市の方で対応してもらおう。

傍) 避難対策というソフト対策は市で熱心にやっているが、農業財産や経済基盤を守ることに對する提言、意見交換等の検討をお願いしたい。財産の問題は市の力だけでは無理である。

事) 河川整備だけでは解決できない問題である。

事) 整備計画の中で資産を失うというリスクに対する対策をとる必要はある。対策例を挙げるなどの対応は可能であると思う。

4. その他（連絡事項）

第5回検討懇談会の開催日は、12月位で調整する。

河川整備基本方針をとりまとめており、次回、兵庫県河川審議会にて、審議される。

5. 閉会

「第4回 三原川水系河川整備計画検討懇談会」が閉会した。

< 委員 >

	名 前	職 名	所属及び専門	出欠
1	道奥 康治	神戸大学工学部教授	学識経験者（治水）	
2	藤原 道郎	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授	＂（自然環境）	
3	宮崎 祐三	南あわじ市立三原中学校教頭	＂（地域文化）	
4	芝 壽浩	南あわじ市連合自治会長	住民代表	
5	山野 均	＂ 緑支部長	＂	×
6	大石 忠男	＂ 西淡支部長	＂	
7	丹羽 啓裕	＂ 三原支部長	＂	
8	奥井 光子	南あわじ市連合婦人会長	＂	
9	宇治田 勝	内水ブロック代表（古津路地区）	＂	×
10	服部 祐治	＂（江尻地区）	＂	
11	大住 恵康	＂（志知川地区）	＂	
12	杉本 勝司	＂（倭文流地区）	＂	
13	宮本 忠彦	＂（志知松本地区）	＂	
14	済藤 孝信	南あわじ市商工会	関係団体	代理
15	倉本 満之	あわじ島農業協同組合代表理事組合長	＂	
16	大浜 義博	湊漁業協同組合理事	＂	代理
17	長江 和幸	南あわじ市収入役	関係行政機関	
			計	15名

< 事務局 >

	名 前	職 名	出欠
1	荒柴 敏夫	淡路県民局県土整備部長兼洲本土木事務所長	
2	濱 浩二	＂ 洲本土木事務所企画調整担当主幹	
3	石井 孝知	＂ 河川砂防課長	
4	市村 徹也	＂ 課長補佐	
5	森田 伸二	県土整備部土木局河川計画課長	×
6	岩谷 晴雄	＂ 計画係長	×
7	熊田 登宇	＂ 主査	
8	松井 三思呂	＂ 河川整備課治水係長	
9	石田 靖	＂ 主査	×
10	吉川 満広	南あわじ市都市整備部長	
11	榎本 尚	＂ 次長	
12	水田 泰善	＂ 管理課長	
13	野田 博	＂ 建設課長	
14	中田 明樹	＂ 農業振興部長	
15	石上 達也	＂ 次長	

< 傍聴者 >

5名